

問いとネットワーク

——科学的実践のマイナー性はいかに記述されうるか

【発表者】

久保明教(日本学術振興会特別研究員:文化人類学)

渋谷亮(大阪教育大学非常勤講師:教育哲学)

近藤和敬(大阪大学CSCD招聘研究員:哲学)

日時:2011年5月27日(金)
15:00-18:00

場所:大阪大学吹田キャンパス
人間科学研究科・東館303

どなたでも自由に参加できます
問い合わせ: tokimeki.bios@gmail.com

【セミナー概要】

今日、科学技術をめぐる諸実践は、政治・経済・文化など様々な領域と結びつき、文系/理系という既存の枠組みでは捉えきれない横断性を帯びている。こうした状況のなか、人文/社会科学における科学技術研究、とくに科学技術社会論(STS)と呼ばれる領域では、自然/社会や人間/モノといった分割をこえて様々な存在者が織りなすネットワークの動態として科学技術を捉える方法論(ANT: Actor Network Theory等)が提唱されてきた。

本セミナーでは近年のSTSで注目される「マイナー科学」概念(ドゥルーズ&ガタリ)と科学・技術的实践における「問い」という契機に焦点をあて、ロボット開発・受容をめぐる事例研究(久保)、精神分析の成立過程に関する歴史的研究(渋谷)、ANTとドゥルーズ&ガタリの発想を接合する理論的研究(近藤)、に基づき新たな方法論の構築を試みる。